

研究者と話そう

■時 間：14:30～15:30(予定)

■常設展示場観覧料が必要です。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。



博物館入口の案内看板を博物館スタッフとともに取り付け中

2月1日(日)

五月女 賢司 (文化資源研究センター機関研究員)

カリブ海の小さな島の小さな博物館

於:常設展示場入口

2月8日(日)

新免 光比呂 (民族文化研究部准教授)

ガラスアイコンについて

於:ヨーロッパ展示

2月15日(日)

廣瀬 浩二郎 (民族文化研究部准教授)

手学問のすゝめ

一さわる人生からさわる文化へ

於:常設展示場入口、第2セミナー室

2月22日(日)

中牧 弘允 (民族文化研究部教授)

ブラジルのカーニバル

於:アメリカ展示

編集後記

地球温暖化のせいなのだろうか、最近テレビの天気予報を見ている、平年より気温が高い日が多いような気がする。大阪の都会では池に氷が張ることもまれであり、子どものころよく踏んで遊んだ霜柱もまったくお目にかからなくなった。近年はどうも「冬將軍」に元気がない。一時的に強い冬型となり、北西の季節風が吹きつけて非常に寒い日もあるのだが、長続きしない。すぐに冬將軍の息が切れて季節風も弱まってしまう。豪雪地帯では、冬型が続けば雪に埋もれ、重労働の雪かきが続くのでたまらないだろうが、他方で、田に雪が積もることで、土が守られ、次のシーズンの収穫が約束されるという側面もある。また、冬の寒さによって、夏のあいだに入り込んでくる南方系の害虫も死に絶え、定着しないですむ。やはり冬はきちんと寒くなくてはいけないのである。天気予報などで冬型がゆるむような天気図を見ると思わず、「がんばれ冬將軍!」と声援を送りたくなってしまうのだが、そのようなわたしはよほどの変人なのだろうか。(佐々木 史郎)



次号予告/3月号特集
千家十職×みんなく

2009年2月号

第33巻第2号通巻第377号
2009年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

(訂正)1月号7頁の写真は、徳之島・亀津闘牛場の誤りでした。

交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。

●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。

